



学校だより

11月号

横浜市立六つ川台小学校

令和2年10月30日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadae/>
E-mail:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp

だれ “誰かのため”

ふくこうちょう うすだ ひであき
副校長 薄田 秀明

めまぐるしく世の中が変化し、時間の流れも一層速く感じられ、戸惑うことばかりの近年、そんな中、5月に予定していた運動会が10月に変更し、先日無事に終わることができました。1年生にとっては小学校初めての運動会、6年生にとっては小学校最後の運動会。6年生一人一人が小学校生活最後の運動会の目標や決意を認めたものが廊下に掲示してありました。それを読むと“自分のため”に努力することだけでなく、“誰かのため”の目的観を感じられるものが多くあり、とても感心しました。きっといつもの何倍もの力を発揮してくれたと思います。

今年度は児童席の分散、手洗いタイム、プログラムの精選による午前中開催、参観者人数制限など感染症防止対策を講じての運動会は、誰もが初めての経験でした。しかし、子どもたちは演技・団体競技・徒競走を通して表現する楽しさ、競い合う楽しさ、自分を高める楽しさを味わい、成長したと信じています。5・6年生の「ソーラン節」は毎年地域の法被をお借りし、力強い演技が下級生の憧れを抱かせてくれます。3・4年生の「台風の目」では、回旋するとき、棒の内側と外側の走り方を変えないとうまく回れません。1・2年生の「徒競走」は、ゴールテープの先を目指して全力でまっすぐ走ります。一つ一つの動きには多くの状況判断を行い、瞬時に動作につなげているのです。練習の時に自分の思う通りにできても、本番では、周りから見られている緊張感と勝ちたい欲求などいつもと違う雰囲気の中、平常心で取り組むことは難しいものです。でも、みんなから受ける応援の声や拍手でいつも以上の力を発揮することもあります。みんなの前で活躍する子、みんなのために裏方に徹して支える子、みんなの活躍に必死で応援する子、友達への励ましが上手な子、勝負にこだわる子、頑張り惜しみない拍手を送る子など、子どもたち一人一人をみたらそれぞれ懸命に取り組んでいる姿があります。どの姿も賞賛に値します。それだけではありません。応援団、マスコットキャラクターの創造・制作、ダンスリーダー、スローガンの提案・作成、放送、採点、審判、進行、全校種目、用具などの係の存在なくては成り立ちません。児童の頑張り・保護者の協力・地域の支援・教職員の計画、まさに“誰かのため”の目的観で六つ川台の総力を結集した運動会でした。ありがとうございました。

11月は読書週間の取り組みも始まります。コロナ禍で読書を楽しむ方が増えているそうです。本を開けば、世界中に出掛けられ、時代を超えて偉人と語り合うこともできます。小学校から良書に触れ、想像力豊かに育ってほしいと願っています。限られた時間の使い方を工夫し、多くの本に触れる機会を作りましょう。